

各位

全3ページ
登録速報(2024-201)
2024年10月30日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。
適用拡大登録年月日：2024年10月30日

記

1 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第16130号

名称：クミアイバサグラン液剤（ナトリウム塩）

2 変更の内容

農薬登録申請書第7項を以下のように変更し、変更後のとおりとする。

- (1) 作物名「移植水稻」の使用時期「移植後15～55日 但し 収穫50日前まで」を「移植後15日～収穫45日前まで」に変更する。
- (2) 作物名「直播水稻」の使用時期「は種後35～50日 但し 収穫50日前まで」を「は種後35日～収穫45日前まで」に変更する。

(変更後) (変更する作物のみ抜粋)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンゾジンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
移植水稻	一年生雑草 (イネ科を除く)、 マツバ、 ホタル、 ウリカ、 オモダカ、 ミズガヤツリ、 ヘラオモダカ、 クログワイ、 コウキガ、 エゾノササガサ、 シスイ、 クサム	移植後15日～ 収穫45日前まで	500～ 700 mL/10a	70～100 L/10a	2回 以内	落水散布 又は ごく浅く 湛水して 散布	2回以内
直播水稻	一年生雑草 (イネ科を除く)、 マツバ、 ホタル、 ウリカ、 オモダカ、 ミズガヤツリ、 ヘラオモダカ、 クログワイ	は種後35日～ 収穫45日前まで					

3 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容
農薬登録申請書第8項(1)、(12)②を以下のとおり変更し、別紙のとおりとする。

- (1) イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占ほ場での使用はひかえること。
また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する事。
- (12)② イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除
した後、多年生雑草及び一年生広葉雑草の防除を目的として使用すること。

別紙

8. 使用上の注意事項

- (1) イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占**ほ場**での使用はひかえること。
また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。
- (2) 本剤は一年生広葉雑草に有効であるが、作物ごとに使用薬量等が異なるので、時期を失しないように、雑草茎葉にかかるよう均一に散布すること。
各作物の雑草への散布適期は以下のとおりである。
 - ・らっきょう、えんどうまめ、実えんどう、さやえんどう、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム、麦類(小麦を除く)、小麦、はとむぎ、せり、おうぎ・・・雑草3~6葉期
 - ・べにばないんげん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 雑草の生育初期~6葉期
 - ・たまねぎ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 雑草の3~4葉期
 - ・いんげんまめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 雑草の2~3葉期
- (3) 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので、晴天時を見はからって散布するのが望ましい。
- (4) 高温条件下では、薬害が生じやすいので異常高温下での散布はさけること。
- (5) 重複散布は薬害のおそれがあるのでさけること。また、周辺作物にかからないように注意すること。
- (6) 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) いんげんまめ、せりに使用する場合、本剤は葉枯・褐変症状の薬害を生じやすく、蒸散の盛んな高温乾燥条件下では薬害により減収することがあるので、雑草害が予想される場合に限り使用すること。
- (8) たまねぎに使用する場合、直播栽培および苗床のたまねぎには、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (9) べにばないんげんに使用する場合、薬液が作物に飛散すると葉に褐変症状の薬害を生じるので、作物に飛散しないように注意すること。
- (10) せりに使用する場合には、落水状態にして水の出入りをとめ、まきむらのないよう均一に散布すること。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないこと。
- (11) おうぎに使用する場合、本剤は一時的には葉先の黄化等の薬害を生じることがあるので、特に天候等をよくみきわめてから散布すること。
- (12) 水稻に使用する場合には一般的注意事項のほか下記についてとくに注意すること。
 - ① 本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定する。
 - イ) 使用にあたっては落水状態にして水の出入りをとめ、まきむらのないよう均一に散布すること。
 - ロ) 水を落とすことができないところでは漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態(雑草が水面上に出る状態)にしてまきむらのないよう均一に散布すること。
 - ハ) 散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないこと。
 - ニ) 処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。
 - ホ) 深水にすると効果が劣るので注意すること。
 - ② イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壤処理除草剤で一年生雑草を防除した後、**多年生雑草**及び一年生広葉雑草の防除を目的として使用すること。
 - ③ 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。
ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から増殖初期まで、クログワイでは草丈15~30cm、エゾノサヤヌカグサでは1~4葉期、シズイでは草丈10~30cm、コウキヤガラでは増殖期、クサネムでは本葉展開期が本剤散布の適期である。
 - ④ クログワイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
 - ⑤ 軟弱稲では薬害(接触害)のおそれがあるので使用はさけること。
 - ⑥ 高温など薬害を生じやすい条件での使用は多めの希釈水量を用い、低濃度液をなるべく水稻にかからないよう散布すること。
 - ⑦ 砂質土および漏水のはげしい水田では使用しないこと。(減水深2cm/日以上)

以上